

## 長崎の市立大村市民病院から

市立大村市民病院 内科 楠元 彰子 (24期生)

多くのみなさん、初めまして。そして私をご存じの方々、ご無沙汰しています。

24期生の楠元彰子です。まずは、簡単に自己紹介を…。

私は、昭和58年愛媛に生まれ、広島で浪人時代を含む20年間を過ごしました。琉球大学に入学してからは、空手道部と中国医学研究会に所属し、多くの素敵な先輩や仲間に出会いました。卒業後は縁あって、自治医大の卒業生を中心に全国各地の地域医療支援目的に設立された地域医療振興協会の研修病院である長崎の市立大村市民病院で初期研修をスタート。研修医が私しかいなかったこともあり1年目から内視鏡をはじめ、健診の腹部エコー、心エコー、虫垂炎手術の執刀医、CABGの前立ち、歯科口腔外科手術の麻酔一連など、多くの手技を勉強させていただく一方で、救急医学会でのoralの発表を経験する機会を持ってました。また、地域医療振興協会は全国に関連病院があるため、自分の希望により産婦人科と小児科は東京の赤羽にある東京北社会保険病院で研修し、離島研修は対馬のいづはら病院にて行いました。現在は、3年目後期研修医として内科外来・病棟・健診エコー・内視鏡などでほとんど余裕のない毎日ですが、指導医の先生方や看護師さん・その他パラメディカルの皆さんに支えられて日々頑張っています。

以上のように書くと、まるで内科医まっぐらのように思われるかもしれませんが、将来的にはWoman's Health Careに携わりたいと考えています。そんな私が、研修医1年目に出会って以来アシスタントとして関わり続けているのが、ALSO(Advanced Life Support in Obstetrics)-Japanという周産期救急に効果的にアプローチできる知識や能力を養うための教育コースです。このコースは1991年にACLSとATLSに基づいて考案されたもので、これまでに50カ国以上でこのプロバイダーコースが開催され、アメリカでは米国家庭医

療学会によって認可されているプログラムです。様々な科の医師や医療プロバイダーを対象にしており、日本では産婦人科医以外ではなかなか携わることのできない分娩に関しての知識・実技の指導を受けることができます。アメリカ等では家庭医やプライマリケア医と呼ばれる内科系医師が女性のトータルケアを行うことができますが、日本の内科医や総合診療医では、女性を思春期から更年期まできちんと診察・診療でき、かつ分娩に立ち会い適切に介助し対応できる医師は非常に限られていると思います。プロバイダーコースは2日間の日程で行われ、レクチャーや実技では、出産前のリスク評価、妊娠初期の性器出血、患者-医師関係、出産危機における両親のサポートについて学び、チーム医療としてのコミュニケーションツール確立を図る目的も含まれています。研修医や医学生でも受講可能ですので、家庭医・プライマリケア医を目指している方、女性診療に興味のある方、産婦人科を志望している方など、少しでも気になった方は下記アドレスまでアクセスしてみてください。来年2月には琉球大学で当プログラムを開催予定です。久々の沖縄で同窓生にお会いできるのを楽しみにしています。以上、長崎から近況報告でした！

☆ALSO-Japanについて：

[http://www.oppic.net/item.php?pn=also\\_japan.php](http://www.oppic.net/item.php?pn=also_japan.php)

